

長野県総合計画審議会

○開催日時 令和4年10月17日（月）15時～17時

○開催場所 長野県庁議会棟3階 第一特別会議室（Web会議併用）

○出席者

委員 安藤委員 牛越委員 梅崎委員 神戸委員 武重委員 中條委員 中村委員
根橋委員 野原委員 柳澤委員

長野県 清水企画振興部長 小林総合政策課長 馬場総合調整幹 ほか

1 開 会

（馬場総合調整幹）

ただ今から、長野県総合計画審議会を開会いたします。私は、本日の司会を担当いたします総合政策課の馬場武親です。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、定数の確認をいたします。本日は、15名の委員のうち、10名にご出席をいただいております。長野県附属機関条例第6条第2項の規定により会議が成立していることをご報告申し上げます。

欠席者の報告です。本日は、碓井稔委員、窪田英一委員、近藤誠一委員、竹重王仁委員、羽田健一郎委員がご都合により欠席されております。

それでは、審議に先立ち、清水裕之企画振興部長からご挨拶を申し上げます。

2 企画振興部長あいさつ

（清水企画振興部長）

企画振興部長の清水裕之です。

委員の皆さまにはご多用中にも関わらず、総合計画審議会にご出席いただきまして心から感謝申し上げます。また、常日頃より県政の推進に当たりまして、格別のご協力を賜っておりまして改めて厚く御礼申し上げます。

次期総合5か年計画ですが、昨年11月に「基本的な考え方」について知事から諮問をさせていただいて以降、大変精力的に議論を重ねていただきまして、本日が第5回目の審議会となります。早いもので次回の審議会が最終回となる予定でして、委員の皆さまにおかれましては、残すところ本日を含めて2回の審議で答申案をまとめていただくということになります。そうした中、本日の資料は、これまでいただいた様々なご議論を踏まえて事務局で答申の素案としてまとめさせていた

だいたものであります。

本日の議論ですが、答申に向けまして本審議会としての考え方が反映されたものとなっているかどうか、委員の皆さまから忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げまして、大変簡単ですが、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 会議事項

(1) 次期総合5か年計画の策定について

(馬場総合調整幹)

続きまして、資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、配布資料の一覧のとおりとなっておりますが、事前にお送りした資料から資料1-1、資料1-3を修正しており、「追加資料」として「戦略的なプログラムを計画に掲げることについて」という資料を追加して配布していますのでご確認いただければと思います。

それでは、これより議事に入りたいと思います。会議の議長は長野県附属機関条例第6条の規定により会長が務めることとなっておりますので、ここからは中村会長に進行をお願いしたいと思います。なお、牛越委員はご都合により途中で退席とお伺いしておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

それでは、中村会長、よろしくお願いいたします。

(中村会長)

はい、皆さん改めまして、こんにちは。信州大学の中村です。本日、都合によりリモート出席です。ご容赦ください。委員の皆さまにはご多忙の中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。先ほど清水部長よりご紹介ありましたように本日5回目の開催となっております、残すところ今回を含めて2回となっております。どうぞよろしくお願いいたします。なお、本審議会については公開となっております。発言録が県のホームページで公開されますことをご了承いただきたいと思っております。

それでは、時間も限られておりますので早速審議に入りたいと思っております。それでは、まず事務局から資料のご説明を一括でお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(小林総合政策課長)

はい、総合政策課長の小林真人です。よろしくお願いいたします。

それでは、資料を一括してご説明申し上げたいと思います。まずは、資料1-1をご覧ください。

次期総合5か年計画全体の構成素案です。左上に計画の位置付けですが、今後の県づくりの方向性を県民と共有し、共に取り組むための、いわば共創型の計画ということで記載のとおりです。全体としましては、「現状と課題」ということで一番左側です。「長野県を取り巻く状況」は8項目、それから「長野県の特長」で7項目掲げております。これらがそれぞれ「政策構築・推進に当たっての共通視点」として、取り巻く状況を受けた共通視点として8項目、特長を受けた共通視点として2項目掲げるのはいかがかと書いています。

このほかに人口推計、それから現行計画の評価、これは前回の総合計画審議会においてご報告を申し上げたものですが、概略をこの中に入れたいと考えています。計画の全体の体系の中、1番上ですが、「基本目標」として、これはあくまでも現段階の暫定仮案ということで掲げたところですが、「確かな暮らしを守り、ゆたかな信州を創る」としてあります。そのもとに「戦略的なプログラム」をいくつか掲げたいと考えております。これは、重点的なプログラムと称していたものですが、ここでは「戦略的なプログラム」としてあります。それを踏まえる中で、「施策の総合的展開」として、県の全体の政策の柱を5つ設けることとしてあります。1番目の「持続可能で安定した暮らしを守る」から5番目の「誰もが主体的に学び続ける社会をつくる」まで5本の柱を掲げ、その柱ごとに目指そうとする姿を定性的に表現してあります。この柱のもとに具体的な施策がそれぞれぶら下がり、右側に「施策の例」を記載してあります。また、これとは別に10の広域圏ごとに「地域計画」を収載するということです。下に「計画推進の基本姿勢」として、これは計画を推進するに当たっての県組織としての基本姿勢を掲げていくという構造にしたいと考えています。

次の資料1-2ですが、これは平成30年3月に現行計画を公表した時の全体の構造図です。どこがどう変わっているかをまとめたのが資料1-3です。資料1-3をご覧ください。現行計画と次期計画の比較で、左側が現行計画、右側が次期計画の素案ですが、ご覧いただきますと、「現状と課題」の「取り巻く状況」に関しては、5年前とは異なり、現在、歴史的な国難、危機に見舞われている状況にありますので、こうした今日の状況を踏まえた形で「取り巻く状況」を充実しています。例えば、「④自然災害や感染症などの脅威」、それから「⑤激変する国際情勢」、それから「⑧ライフスタイルや価値観の多様化」など、5年前とはこうした点で非常に変化がありますので、こうしたものを加えて充実をしています。

さらに「特長」に関しましても前計画では書ききれていなかったものを追加的に書いてあります。「①学びの風土と自主自立の県民性」、この自主自立の県民性に「学びの風土」を加えています。それから、「②自立分散型の県土」、「⑦地域で育まれてきた特色ある産業」で産業に関しても本県の歴史的な状況、それから特徴などを記載しております。

その後の「共通視点」ですが、現行計画では5つ共通視点を掲げておりましたが、「政策推進に当たっての視点」と「県組織としての姿勢」とが混在しておりましたので、これを分けてあります。

一部は「政策構築・推進に当たっての共通視点」に持ってきておりますし、一部は「計画推進の基本姿勢」と1番右下のところですが、移行をしています。特に「共通視点」に関しては、先程の歴史的危機、国難を踏まえた形で充実しています。

それから「基本目標」ですが、これはまた後ほど申し上げたいと思っておりますが、現行計画の「確かな暮らしが営まれる美しい信州」という目標は、その前の計画と変わっていなかったところです。それとともに波線で、「学びと自治の力で拓く新時代」というサブ目標を設定したところです。

今回の「基本目標」、暫定仮案ですが、「確かな暮らしを守り、ゆたかな信州を創る」と、取り巻く状況の大きな違いを踏まえながら基本目標を変えています。「サブ目標」に関しては、今後、ご議論いただいた上で検討していかなければいけないと思っております。

それから、政策の柱立てですが、前は6本柱でしたが今回は5本柱で整理しています。それから新たに、「戦略的なプログラム」を設けたいと思っております。それから「計画推進の基本姿勢」を「共通視点」とは別に特出ししています。一方で、現在、新たな「行政・財政改革方針」の策定作業も進んでいるところでして、基本的な組織のあり方ですとか組織改革に関しては、一部こちらの改革方針に収載するものもあるかと考えているところです。以上が現行計画、次期計画の全体的な違いです。

それでは、資料2をお願いしたいと思います。「次期総合5か年計画の策定について(答申素案)」です。昨年11月に総合計画審議会において、次期総合計画策定に当たって「基本的な考え方」を諮問申し上げたところでして、それに対する答申素案です。

まず1ページですが、「策定の趣旨」に「計画の位置付け」と「計画期間」があります。位置付けとしましては、まず、将来像の展望は概ね2035年をターゲットイヤーとし、その上で今後5年間の行動計画を定めるというものです。また、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく、いわゆる「地方創生戦略」を兼ねたものにするということ、それから現行計画でもそうですが、SDGsの達成に寄与するものという観点も取り込んでいきます。計画期間は2023年度から5年間になります。

それから2ページ目、「現状と課題」です。導入部分では委員の皆さまからいろいろご意見をいただいている「VUCAの時代」も盛り込み、今日のデジタル技術の変革、SDGs、あるいは地方回帰の動き、こういうものも盛り込んでいます。

1として「長野県を取り巻く状況」では(1)～(8)まで掲げています。(1)の「少子化と人口減少の急速な進行」においては、日本の状況、世界的な位置あるいは県の状況を書き込んだ上で、県の今後の人口の見込み、それから人口減少に伴う様々な課題として産業分野における担い手の不足、地域公共交通の維持困難、あるいは社会保障制度の持続可能性の低下、こうしたものを記載しています。

それから(2)「東京一極集中から地方分散への動き」に関しては、1段落目で日本の状況を書き

込んでいます。地方で暮らすことへの関心の高まり、あるいは首都圏企業の地方移転の動き、こうしたものを盛り込んだ上で、本県の最近の状況、転出の超過幅が縮小してきているということ、一方で依然として20代前半の若者の転出超過、特に、女性の転出超過が著しいということを書き込んでいます。

(3)の「気候変動への対応や持続可能な社会の実現に向けた動き」では、1段落目では、世界各地の猛暑、あるいは世界各国で、温室効果ガス実質ゼロを目指す動きとしてガソリン車の販売規制なども始まっており、サプライチェーン全体での脱炭素化の動き、こうしたものを踏まえ、本県の状況として気候非常事態宣言を記載しています。

それから(4)「自然災害や感染症などの脅威」では、1段落目は本県でも見舞われた大規模災害、これは気候変動が原因になっているのではと考えられるわけですが、このところの大規模災害について触れています。それから2段落目では、新型コロナウイルス感染症、今後いずれ訪れるであろう新興感染症の問題、こうしたものも掲げております。

それから(5)「激変する国際情勢」では、今日の世界情勢を記載しています。1段落目では、世界情勢としてのグローバル化、一方でこのところ見られる保護主義的な動き、2段落目で、国際社会の中で日本の世界的な地位が低下している点に触れています。その上で3段落目、コロナそれからロシアによるウクライナ侵攻の影響についても言及し、このところの物価高騰、こうしたものも入れています。

それから(6)「社会におけるデジタル化の急速な進展」では、まずは5G、IoT、AI、「Society5.0」、こうした日本の状況について触れるとともに、2段落目には、コロナで浮き彫りになった我が国が抱える潜在的な問題、1つはデジタル化の遅れ、あるいはサプライチェーンの問題、こうしたことを指摘しています。さらに、最後には中山間地域における問題にも言及しています。

(7)「社会に存在する様残な格差」では、1段落目は、今日の日本の状況、かつての規制改革など新自由主義的な政策の中で格差が拡大してきたということ、それから2段落目でコロナの影響による問題の顕在化、それから3段落目では性的マイノリティーに対する差別などの問題にも言及しています。

(8)「ライフスタイルや価値観の多様化」では、今日的なテレワークなどの柔軟な働き方、二地域居住あるいはデジタルネイティブと言われるZ世代の価値観、こうしたものに言及するとともに、2段落目では生活の質やゆとりのある暮らしを重視する傾向に触れています。最後にこうしたものを踏まえて人生100年時代の中で、柔軟な社会を目指すべきではないかということに言及しています。

次に6ページ目ですが、2としまして「長野県の人口推移と将来展望」です。ここに関しては今回初めてお出しします。(1)としては、これまでの人口推移として長野県の人口のこれまでの実績

に関して記載をしています。図1のとおり、長野県の人口、これは5年おきですが、2000年の221万5千人がピークでして、以降、漸減している状況です。人口構成比は下の図のとおりです。徐々に若い世代が少なくなっている状況が分かるかと思います。

それから7ページ目、過疎地域の人口増減率です。それから、図4は社会増減と自然増減の推移についてグラフにしたもので、1970年代は自然増が非常に多かった時代、それから社会減も多かった時代です。これが80年代に入って社会減が急速に小さくなっていく、それから自然増も徐々に縮まっていくという流れが分かるかと思います。2000年代以降をご覧くださいと、少子化の流れが加速し自然減が非常に大きくなっています。それから、8ページですが、図5、出生数と合計特殊出生率の推移、それから図6、平均初婚年齢の推移、図7では50歳時の未婚率の推移も掲載しております。図8は国内移動の推移でして、2010年までは国内移動のマイナスが大きかったが、2020年以降コロナが始まり、その減り幅が小さくなっている傾向が分かるかと思います。それから、9ページの図9ですが、男女年代別の転入超過で、15歳～19歳それから20歳～24歳が本県にとって転出の数字が多いことが分かるかと思います。とりわけ女性の方がより大きく、転出超過している状況です。

(2)ですが、「長野県人口の将来展望」は現在作業中です。今回は国立社会保障・人口問題研究所がまだ推計を出していない状況で、来年の初めになると聞いており、出生率、それから社会増減、純移動率という数字をどう置いて推計するか検討しています。また、もう1つ改善がされるシナリオの推計もしたいと思っておりますが、いつ合計特殊出生率が県民の希望する値になっていくか、あるいは人口置換水準になっていくかということ、また、社会増減の推移をどう組み込んでいくかという仮定を検討しています。ここは可能な限り早く出したいと思っております。

それから10ページです。「これからの長野県」として1番上が2022年の状況ですが、それ以降どんなイベントがあるか、あるいは既に国立社会保障・人口問題研究所の人口推計があるので、それによると人口がどうなるかを記載したものです。例えば2025年には団塊の世代のすべてが75歳以上になる状況ですし、2029年には生産年齢人口が7千万人を下回る状況です。2035年以降になると日本の総人口が1億1500万人、全都道府県で人口が減少ということですか、日本の85歳以上の人口が1千万人を超えてくると、あるいは世界人口は88億人を超えてくるという状況、あるいは日本の新車販売で電動車が100%になるであろうという政府方針があります。1番下には世界の年平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5℃以内に抑制するという2050年の国際目標も記載しています。

それから11ページです。「長野県の特長」として「学びの風土と自主自立の県民性」にご意見をいただいておりますが、信州やまほいくですとかイェナプラン教育ですとか、全寮制のインターナショナルスクールなど長野県の特長ある教育に関しても盛り込んでいます。

それから(2)「自立分散型の県土」にもご意見を頂戴しておりました。そもそも市町村が77で多

いという観点、広域連合の話あるいは連携中枢都市圏や定住自立圏の話も入れ込んでいるところです。(3)の「変化に富んだ豊かな自然環境」では、山頂テラスやグランピングの話を入れています。

それから(4)「多様な文化と豊かな交流」に関しては、地勢的な中央構造線、フォッサマグナと、信仰との関係も入れています。

(5)「大都市圏からのアクセスの良さ」では結節点としての価値や、移住のアドバンテージの話を入れています。

(6)は「全国トップレベルの健康長寿」として農村医療、地域医療に根差した今日の長野県の平均寿命、健康寿命がトップレベルであることに言及しています。

(7)「地域で育まれてきた特色ある産業」では製造業の変遷、それから農業の変遷、林業の変遷をそれぞれ入れています。

それから14ページ、「政策構築・推進に当たっての共通視点」として、何度かご説明を申し上げてきているところです。新たに視点の1-3として「農山村地域を持続的に発展させる」として、視点1-2から農山村地域を分けて記載しています。

それから15ページの「長野県の特性を踏まえた視点」の視点2-1ですが、これまでお話をいただいていた「学びと自治」を視点2-1に入れ込んで、引き続き、自主自立の県民性と学びと自治の力で拓く視点は重要であるということを書き込んでいます。

次に16ページの「基本目標」です。暫定仮案ですが、「確かな暮らしを守り、ゆたかな信州を創る」という形にしています。次期計画では、歴史的な危機の中で「確かな暮らし」のベースが揺らいでいるという考え方のもとに、想定されるリスクの予防、影響の最小化に努めると、あるいは危機発生時の対処を適切に行うことで、持続可能で安定した社会の実現を目指すとして「確かな暮らし」を掲げたいと、それからもう1つは、経済的な豊かさの一方でやはり健康で文化的で人間らしい生活、これが重要であるということによって精神的な豊かさ、心の豊かさを掲げることで「ゆたかな信州」を掲げるのはいかがかと考えております。

次に17ページ以降が「めざす姿」です。今回は、ここが入っていませんでしたが具体的に記載をしています。それぞれ「課題」「取組の方向性」「めざす姿」を書き込んでいます。これは、政策の5つの柱ごとに課題を分解した上でめざす姿を掲げ、取組の方向性を入れております。例えば、「持続可能で安定した暮らしを守る」の中には、脱炭素や災害対応、医療・介護体制などを入れておりますし、それから2の「創造的で強靱な産業を育てる」には、起業、スタートアップの増加・育成、循環経済、地域内経済循環を掲げています。以下このような形で記載をしております。

それから21ページですが、「計画推進の基本姿勢」として、これまでも触れてきたところですが、「県民とのパートナーシップによる行政運営を推進する」として「県民起点の意識づけを徹底する」以下4点、それから「市町村等との連携を推進する」と「地方分権の推進に取り組む」について言

及をしています。

最後の資料3ですが、これまでの県民との意見交換の状況をまとめたものですのでご覧いただければと思いますが、「信州これから会議」や県内大学生からの施策提言の発表会、こうした特徴的な取組に関しては計画本体を編さんする際にコラムにすることも検討しています。

それから、最後に追加資料でお配りしているA4、1枚のものです。先ほど全体の構成の中でお話ししましたが、戦略的なプログラムを掲げたいと思っております。戦略的なプログラムは、大きな時代の転換期にあつて、新しい時代に向けて社会システムの転換、あるいは施策の新展開、加速化、他に先駆けた取組を進めていく必要がある政策課題を掲げ、これに対応した戦略的なプログラムを掲げられないかと思っております。そのもとに先導的なプロジェクトをぶら下げたいと思っており、例えば、「女性・若者から長野県が選ばれるための戦略」、「脱炭素社会を実現するための戦略」、「デジタル社会の実現を加速するための戦略」、「新たな時代の学びの戦略」、「経済を再構築するための戦略」、「農山村地域の魅力と潜在力を生かすための戦略」を掲げたいと思っております。これに関して、委員の皆さまから、このほかにどんな戦略があるべきか、あつたらよいか、あるいは掲げるべき具体的なプロジェクトとして具体的にどんなものが考えられるのか、ご意見を頂戴できるとありがたいと思うところです。

説明は以上です。

(中村会長)

小林課長、ご丁寧な説明ありがとうございます。これから、意見交換をお願いしたいと思います。先ほどご案内がありましたように16時に牛越委員が所用でご退席ですので、牛越委員、全体を通じて追加資料を含めてご意見を賜りたいと思います。よろしく願いいたします。

(牛越委員)

はい、ありがとうございます。牛越です。

ご丁寧な説明と発言の機会をいただきありがとうございます。何回にもわたるこうした審議、本当にありがとうございます。前回もご提言申し上げましたように、学びを重点にしていくという考え方、あちこちに色濃く書かれており感謝申し上げます。資料1-1の中で、施策の総合的な展開の中で5番目に柱を立てている「誰もが主体的に学び続けられる社会をつくる」、そのタイトルはいいのですが、内容を読んでいくと大半がいわゆる学校教育です。ここに、学校外における学び、あるいは地域社会における生涯学習の概念を表現として入れていただけたらどうかと思います。というのは、このペーパーの1番左にある様々な課題、どの政策課題をとっても、取り組むには地域における県民の皆さん一人ひとりがいかに地域課題に向き合っていくか、地域活動の中でこれを解決

していく生涯学習という観点を、より明確にさせていただいたら一歩進むのではないかと感じています。

最後に説明いただきました追加資料の中でも、いわゆる戦略的なプログラムを計画に掲げる骨組みの中でも、4つ目に「新たな時代の学びの戦略」、100年の計でなくてはならないテーマですが、やはり、県民の皆さん一人ひとりが様々な地域課題に取り組むことによって県全体を輝く地域にするためにも、最初に手を付けるのはむしろ生涯学習の分野ではないかと強く実感するところです。

それから2点目ですが、答申素案の中で、9ページの「長野県人口の将来展望」は作業中とのこと。非常に難しいテーマではありますが、人口の将来展望を計画に正確に位置付けることが重要だと思います。ご提言申し上げなければいけないのは、国立社会保障・人口問題研究所などに基づく客観的な推計に加え、これから政策を展開した結果としていかに人口減少が改善されるか、食い止めて行くか、その目標を明確にすることは重要です。出生率を高めていく、あるいは働きやすい環境の中で子どもを産み育てる環境づくり、あるいは社会的な増減で言えば、まさに移住定住、あるいは転出をいかに食い止めていくか、計画によって取り組む政策努力によって、いかなる改善をしていくかが一番大事だと思います。成果指標の重要な一つになるのではないかと、ぜひこの点については真剣な取組の姿勢を表現してください。

それから、資料の13ページの「(7) 地域で育まれてきた特色ある産業」について、第1が製造業、2番目では地域社会を形成するために重要な農業・林業といったこれからの有望産業、その後ろに、ぜひ観光業も位置付けていただけたらいいかと思っています。やはり長野県の観光は地域の自然や山、雪、水、あるいは温泉といったものを宝としながら地域が率先して育んできたという観光地が多いです。そして観光資源は決して他所に逃げて行かない、資本の移動もほとんどない、そういった意味で長野県を将来に向かって支えていく一つの産業分野として、柱を立てていただけたらいいかかと思っています。

そして15ページ、繰り返しになりますが、「政策構築・推進に当たっての共通視点」として2の「長野県の特性を踏まえた視点」で、「学びと自治の力で未来を切り拓く」に県民総参加という概念をしっかり入れていきたい。これは生涯学習の展開にも繋がるものです。

以上、駆け足で申し上げましたが、それらについての検討を加えていただければありがたいと思います。以上です。

(中村会長)

牛越委員、非常に的を射た、かつ建設的なご意見をいただきましてありがとうございます。ご意見を拝聴していてそのとおりで思ったところです。

審議会は今日含めて2回しかありませんので、資料2の案を固めていかなければいけないところ

です。県職員の方に文書作成にご尽力いただいているところで、まだ空白がある状況ですが、今ある中でお気づきの点、ご意見があれば伺っていきたいと思います。資料構成が重要だと思っていますので、ページをめくりながら、意見がなければ次に進めるというように進めていきたいと思います。

それでは、2ページからですが、「現状と課題」で追加されたのが人口動向のデータでした。先ほど牛越委員からあったように、9ページの将来展望にポジティブアクションのような政策がいるのではないかと思いますので、まずは2ページから9ページのところでご意見があればご発言願いたいと思います、いかがでしょうか。どなたからでも結構です。

中條委員、お願いします。

(中條委員)

資料2の2ページの下から4行目の「若者の転出超過が大きく、特に同年代の女性の転出超過が目立っている」ということですが、女性が何故、転出が多いか調査をしていただきたいと思うのですが、調査をしたことがありますか。女性は学ぶ場所が県外に行かなければいけないのかどうか、県内でも学べるのかお答えいただければありがたいと思います。

(小林総合政策課長)

かつて調査をしたことがありまして、女性の転出として大きい理由は、都会への憧れがひとつ挙げられています。それから、就業先や就学先が県内にはないということも1つ大きくあるということです。やはり県内に魅力的な、若い女性が魅力を持つような就職先あるいは就学先をいかに確保するかが大きな点と考えているところです。以上です。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。これは9ページの将来展望のところ、先ほどのポジティブアクションにも繋がると思うのですが、20代の女性の転出の何らか対策を提言すべきと感じますので、事務局の方でぜひご配慮ください。

ほかに9ページまででいかがでしょうか。根橋委員、お願いします。

(根橋委員)

概要・答申素案を取りまとめいただいたこと感謝申し上げます。全体的に働く視点が欠けているという認識です。具体的な取組の方向性を読み込めば、結果的に労働や働くことに繋がっていることは理解しますが、先ほどの若者・女性の転出の問題等も含めて「選ばれる長野県」と

いう記載もありますが、その県づくりには「暮らし＝働く」という視点が重要ではないかと思っています。また、詳細のところでも発言させていただきますが、働く視点も含めて「長野県を取り巻く状況」の「気候変動への対応や持続可能な社会の実現に向けた動き」、また「激変する国際情勢」にも繋がると思うのですが、現在、企業活動における人権の尊重が注目されており、あらゆる場で議論をされるようになってきています。ESG投資の中でいわゆる「ビジネスと人権」という考え方が非常に重要な要素になってきていることも指摘されています。地域においても企業活動、経済活動における人権尊重の取組の視点を盛り込んでいただくようお願い申し上げます。以上です。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。働く場所、働く機会、場の提供というところは「確かな暮らし」と密接にリンクしていると思っております。

ほか、いかがでしょうか。野原委員、お願いします。

(野原委員)

2ページから9ページまでは長野県を取り巻く状況ということでよくまとめておりますので、これはあまり問題ないと思うのですが、ただ一点、ただ羅列するだけではなくて、取り巻く環境の中で、では長野県はどうするんだというところに今度は視点が向いてくるわけです。その辺のまとめを整理しないと。そういう状況だなというのは分かるのです。長野県がいい県になるためには何をしたらいいのかというところに結びつけるような検討が、まだ補足で必要ではないかと、そんな感じがいたします。特に少子高齢化の問題から始まって8番までは世の中の状況と長野県が置かれている状況で、その中で何をすれば長野県の人たちが安心して働いてくれるのかということ掲げないと、計画がただの計画で終わってしまうので、中身を煮詰めていきたいという感じがしております。以上です。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。これも9ページの人口の将来展望に関わることだと思うのですが、繰り返して、ポジティブアクションで何をどうすれば人口減が食い止められるか、移住とか、そういう観点があるのか、また、事務局とご指摘いただいた点につきましては検討していきたいと思えます。

ほか、いかがでしょうか。それでは次に進んでよろしいでしょうか。「長野県の特長」これは前回にも示し、まとめていただいたものです。先ほど牛越委員から観光産業が非常に重要だというお話がありましたが、この11ページ～13ページにつきまして、ご意見を賜りたいと思います。いかがで

しょうか。武重委員、お願いします。

(武重委員)

先ほど牛越委員が指摘をされたところ、私も世界に誇る観光事業ということでぜひ入れることに賛成です。それから、私は農業、第1次産業の関係ですから、農業、林業に加え、海はありませんが漁業も世界に冠たるシナノユキマスを含め、一生懸命取り組んでいるところでもありますので、落ちがないようにお願いしたいと思います。以上です。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。農林水産業に関するご指摘です。

ほか、いかがでしょうか。はい、まずは安藤委員、お願いします。

(安藤委員)

前回の会議で、「長野県の特性」について、余りにも平板な表現で記述されていて面白くないとコメントしたのですが、今回は力を込めて書き直していただいたという感じがしています。今回初めて長野にはこういう特徴や強みがあったことを知ったくらいです。問題はこれをどうやって長野県の魅力として発信するか、むしろそれを考えることが大切だと思いました。最近岸田首相は所信表明演説の中でデジタル田園都市構想について盛んに語っておられます。また、これからウィズコロナの時代になると「サステナビリティ」ですとか、「自然との共生」というライフスタイルが更に重要視されてきますと、長野県の特徴をもっと魅力的に打ち出せるという気がしています。例えば、1998年の長野オリンピックの時にスタートした「一校一国運動」。私は、これは海外の「ワンスクール・ワンカントリー」というコンセプトが先にあったと思っていたら、実は、長野県が最初に長野オリンピックで使った言葉で、それが今でも世界で継承されていることが分かり、こういう長野県が発想したコンセプトを「長野モデル」としてうまく発信できたら長野らしい計画になるのかなという感じがしています。前回に比べたら相当魅力的な書き方になっているという気がしています。

(中村会長)

ありがとうございます。今ご指摘いただいた点は、私も追加資料の戦略的なプログラムが6個あるのですが、国内だけではなく世界に向けた情報発信も必要だと思っております。

梅崎委員からも手が挙がっております。よろしく願いいたします。

(梅崎委員)

前回、教育の観点の柱を明確にということと、環境的な特色を活かしてと意見させていただきましたが、すごく分かりやすく表に出て良くなっていると思いますし、前回の計画との整合性もまとめていただいていますので、より分かりやすくなると思います。

各論になりますが、地域の特徴ある産業がすごく大事になると思うのですが、先ほど観光業という新しい視点を牛越委員が出されていましたが、もう1つ、あまり言われていないことですが、健康長寿県ということで福祉医療的なこともうまくできるのではないかと、観光と同じような観点で、長野県の特徴になるのではと前から思っていて、例えば、日本全体で見ますと東南アジアから来て医療を提供していただいて帰られるとか、そこまですらなくても、いろんなヒーリングとか山間学校とか今までの取組もありますので、福祉医療もポイントかなと思っています。

あとは、個別の政策になりますが、芸術文化、スポーツも入れていただいていますし、だいぶ中身が見えるような柱立てになってきていると思います。いろいろありがとうございました。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。まとめていただきありがとうございます。今ご指摘いただいたのが健康長寿のところを観光とみなしたらというご提言でした。

ほか、いかがでしょうか。次に進んでよろしいでしょうか。それでは14ページから「政策構築・推進に当たっての共通視点」というところで、14ページと15ページです。ご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。今、ご指摘いただいたところも盛り込んで次の最終バージョンには改良しないといけないと思いますが、新たな点で何か。

(梅崎委員)

よろしいでしょうか。先ほどの続きにもなります。県民の皆さまの意見交換を見ていると、やはり農村とか林業とかがかなり出ています。前回発言しようと思って失念してしまっていて、同じことがここにも書いてあるのですが、長野県の空き家率が全国でも高いということで、有効利用も1つの政策にと思っています。中山間地域対策ですとか、いろんな少子化の暮らしの対策とか、空き家とか空き地をうまく活用していただくような、具体的になりますが、議論されていなかったのご指摘したいと思います。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

安藤委員、お願いいたします。

(安藤委員)

今の「空き家率」で思い出したのですが、デジタル技術を使うことによって、例えば全国の空き家を連携させてサブスクリプション型課金というのですが、毎月決められた額を払っておけば全国どこでも自由に住めるサービスが人気を集めていて、それが社会課題を解決するソーシャルイノベーションとして新しい動きになっているのです。最近、「二拠点生活」とか言われていますが、若い人たちは住みたい地方に移住しながら、IT技術によって全国何処に住んでも東京の仕事と連携できるようなことが可能になりつつあります。梅崎委員がおっしゃったように、空き家率が高いということは非常にネガティブなイメージでしたが、デジタル技術をうまく使えば新しい魅力に変化できると思うのです。それから、古民家をうまく利用するので、むしろ地方の方が東京の新しい建物というよりも、有効な資源の再活用になってくるわけです。

先ほど「長野県の特性」の中で、農業も林業も今までは非常に生産性も低いし、輸出競争力が弱いと言われていたのですが、データやデジタルの活用によって、経験が無くても就業が容易になり若い人たちが農業にもっと魅力を持ち、関心を向けてくるという兆候はすでにZ世代の人たちが示しているわけです。林業でも同じで、今までは決まった使い方、決まった利用方法しかなかったものを、これからデータベースとかデジタルを使うことによって、もっと幅広く魅力的な強みに転換できる。オランダが農業で立国しているのと同じように、日本の農業の国際競争力が強くなるということは、アジアやアフリカ諸国に対してものすごく優位になってくると思うのです。そのような長野の持っているポテンシャルな強みをこれからの5年間は挑戦すべきだと、これが長野の強みになってくるという気がしています。

(中村会長)

ありがとうございます。これは恐らく全体で共通していると思うのですが、地域に埋もれた資源を発掘して活用するという、まさに地域中核人材をつくるのが重要と最後に言おうと思ったのですが、追加資料で出された6項目の中の新たな学びの戦略のところ、児童・生徒のレベルだけではないと思うのです。確かに重要で、幼稚園、小学校からきちんとやらなければいけないのですが、まさに大学生、あるいはリカレントによる生涯学習も含めて、本当に地域のために役に立って、それをさらに発展させるような地域中核人材をつくるという、そういう学びをしっかりやる県にすべきだと思うのです。それによって人口減少が食い止められるのではないかと考えております。あまり司会が自分の意見ばかり言うてはいけないのですが、この観点で、ぜひ埋もれた資源を発掘して活用するためにどうするかということ、梅崎委員それから安藤委員のお話を聞いて思った次第です。

ほか、いかがでしょうか。

(野原委員)

はい。先ほども申し上げましたが、一番大事なことは今どういう状況に置かれているかということです。14ページ、15ページは共通視点とありますが、この中に、その前にある長野県の特徴が入っていたり、あちこちにいろんな言葉が入っていて、何のために入れているのか、この視点というのは何なのかと、何かごっちゃになっている感じがしてしょうがないのです。

今、会長がおっしゃったように、今の状況がどうで、それでこれからの長野県をどうしていくかと、長野県を築いていくような中核の人材が論点になった場合に、ややこしい言葉がいろいろ並んでいるとぼやけてしまう。学びはいろんな考え方があるのですが、私は生活するための知恵だと思っています。企業を経営するための知恵もそうですし、データを活用するための知恵もそうですし、全部学びです。広い言葉をひとつの言葉で表しているから、何を言いたいのか分からない。例えば観光面でいくと、観光をどう長野県は推していくのかというのは、今、いろいろ推進会議などやっているわけですが、地域のひとつの特徴をつかんで成功例をつくって、それを横展開することによって長野県の観光のレベルが上がるということで、県からも資金を出していただいて、人も観光機構からも出しているわけですが、その時には学び、現状の長野県の特徴をどう活かして観光資源にするのか、それは知恵です。バラバラと項目があるとどう組み合わせさせて、長野県は何をしたいのか、何となく分かりにくい感じがしてしょうがない。同じ言葉はあまり入れないとしないと、あっちこっちでいろんなことが出てくるので、それをどう使っていくのか理解しがたいなと思っているんですが。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。ご指摘そのとおりだと思いますが、事務局はどうですか。

(清水企画振興部長)

いろんなところに同じような言葉が出てきてぼやけるというところで、問題意識は我々も作っている中で意識はしておりましたが、もし委員の方で、具体的にこのあたりが気になるという部分があればご教示いただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。

(中村会長)

野原委員よろしくお願ひします。

(野原委員)

私が引っ掛かるのが、「誰にでも居場所と出番がある社会をつくる」、「学びと自治の力で未来を切

り拓く」、みんな精神論です。具体的に表してまとめた方がいいという意見です。

(清水企画振興部長)

はい、ありがとうございます。今回諮問している部分が「基本的な考え方」ということでして、今後、委員がおっしゃられた、例えば「誰にでも居場所と出番がある社会をつくる」はお題目のようなことが書いてあり、何をするのが書いていないのですが、後半の方で、めざす姿で、例えば19ページ「多様性が尊重される温かく公正な社会をつくる」という柱の中で、方向性や注力すべき施策の例を書いています、具体的にどんなことに取り組んでいくのか記載させていただいています。以上です。

(野原委員)

分かりました。私の理解が違って、普通はよく、計画を立てる時に現状の姿、今のところ達成されていない課題、それに対して今後どう目指したらいいかを整理していくのですが、この共通視点などは参考資料ということですか。本来はめざす姿の方がもっと大きい項目になるわけです。そう考えれば別に項目がいろいろ出てきても、これは参考であればいいのですが、いつも計画書が全部並列で書かれているので、項目の順位が高いのか分からない、だから総花的になっているような感じがします。

(安藤委員)

よろしいでしょうか。冒頭に説明がありましたように、現在は先の見えないVUCAの時代ですので将来を予測するのは難しいのですが、今回の計画を作るに当たって私が評価しているのは、まず2035年と相当先へ目線を持ってきていること。SDGsは2030年を目標にしていますので、さらに5年先を目指していると、それからゼロカーボンは先進国の場合は2050年を目標としていますのでそこまではいかないのですが、2035年を目指してそこからバックキャストしながら、今何をすべきかを考える。まず、めざす姿を描いておいて、その実現のために、具体的施策に落とししていくやり方は、こういうVUCAの時代では適切なやり方・評価すべき方法と思っています。

いろんな視点がありますから皆さん十人十色で色々考えられますが、この計画を作るに当たっては、県としての観方を明確に述べているわけで、私は真ん中に書いてある5つの大きな柱、これがメインですので、それをどうやって具体的に組み込んでいくか、KPIも最後に出てくるのでしょうか、そう考えれば、全部が同等ではなく、先ずメインとなる5本の柱を置き、その実現のために環境分析とか視点の設定をしたと理解しているので、これはこれで結構分かりやすい、前回の総合計画との違いが出ていてよいのではないかなと思っています。

(中村会長)

私から補足させていただきますと、この答申素案が6部構成でして、2ページから「長野県を取り巻く状況」で、11ページから「長野県の特性」、弱みを克服して強みをさらに伸ばすということで、14ページ・15ページで「共通視点」を定めたと、それを基に、安藤委員がおっしゃいました共通目標を定めて、17ページから「めざす姿」という構成になっているところです。

重複する感はありますが、14ページ・15ページは再度まとめたという建て付けになっています。また振り返ってご意見を賜りたいと思います。

16ページの「基本目標」は暫定的なコピーですが、「確かな暮らしを守り、ゆたかな信州を創る」というところで、前回のような「美しい信州」ではなく、能動的なアクションを示しているところでは、精神論ではなくて一歩踏み出しているとは私は思っています。

「確かな暮らし」とは何かブレイクダウンして説明する必要があるだろうと、事務局の方には提示してほしいと言っていたところですが、基本的人権を守るとか、安心安全な生活とか、多様性の担保や公正な社会、そういうものが保障された暮らしが「確かな暮らし」になるのかなと思っています。

これにつきまして、何かあればご意見を賜りたいと思います。どなたでも結構ですからよろしく願います。梅崎委員、願います。

(梅崎委員)

先ほど説明をいただいたので理解したのですが、これだけを読むと「ゆたかな」というのがどうしても経済の方に引っ張られるような文言になっていて、この文章では読み取りにくいなと感じました。「ゆたかな信州」だと経済的な豊かさの方が表に出過ぎるという印象です。ただ、先ほど心の豊かさと言われたので、内面的な豊かさに関わるような柔らかい言葉があるといいなと。具体的には思いつきませんが、そういう印象です。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。これは恐らく「ゆたかな信州」を説明するような解説を付けていただくことが必要と思っています。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。次に進めてまいりたいと思います。

17ページから「めざす姿」になるわけです。この17ページから20ページまで、ご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。柳澤委員、願います。

(柳澤委員)

19ページの4、「多様性が尊重される温かく公正な社会をつくる」部分ですが、現在、格差社会が非常に進んでいる中で、全ての人に存在欲求というものが必要になっている状況があります。そうした中で社会的弱者だけではなくて全ての人を対象にした共生社会を構築していく必要があると考えます。「多様性が尊重される温かく公正な社会」に加えて、共に生きる社会、共に支え合って生きる社会を入れていただくといいのではないかと考えています。

そして「注力すべき施策の例」ですが、ポツが5つありますが、そこに地域共生社会の推進も入れ込んでいただければいいのではないかと考えています。それと、多様な価値を認め合いながら社会参加を叶えられて、一人ひとりが生きがいや役割を持って支え合いながら、共に暮らしていくことができる地域や社会を目指すこと、めざす姿に加えていただければありがたいと思いました。以上です。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。ご指摘ごもっともだと思いますのでその辺を組み込めるように検討してまいりたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。根橋委員、お願いいたします。

(根橋委員)

先ほどの基本目標にもあるように、「守り」「創る」ためには、その間に「繋ぐ」という視点が重要となります。働く視点からみれば、「学ぶことと働くことを繋ぐ」、「暮らしと働くことを繋ぐ」、「離職から就業に繋ぐ」、「健康で働き続けられる社会」という視点など、すべて密接に関係している観点となりますので、こうした繋ぐ機能を何らかの形で盛り込んでいただければと考えております。また、牛越委員からもありましたように、学びの視点から言っても、企業側が学生の採用に際して高等教育の学びの実績を重視していない実態など、学びが職業に直結していない現状も見受けられます。

そういった社会的な課題等々も含めた対策が求められると考えております。取り巻く環境はこのコロナ禍で変わってきておりますし、DX人材等が求められる一方で、県内外の中小企業からは、まずは技能継承が最優先の課題である、技術人材は重要だが技能の継承が進まなければ人材を活かせないなどの課題もあることから、基幹産業を支える技能人材に光を当てていただくことも重要な視点ではないかと考えております。そうしたニーズも含めた「繋ぐ視点」も盛り込んでいただければと考えております。以上です。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。

技能継承、繋ぐ機能のあたりですね。非常に重要だと思いますし、おっしゃるとおりだと思いますので、今ご発言いただいたところも全体通して盛り込みたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。安藤委員、お願いいたします。

(安藤委員)

重複してしまうかもしれませんが、これは総合計画ですので、どうしても総花的にならざるを得ないのはよく分かります。会長がおっしゃいましたが、今までに比べたら自分たちが創っていくという主体的な意思を感じる、総花的な中でも努力した跡が感じられます。

その中でキーワードとしては、ひとつは「サステナビリティ、持続可能な社会をどう作るか」ということ、それと「DX」です。日本が世界の中ですごく遅れているわけですが、アジアの中でもむしろ中心国から後進国になってしまうような感じです。もう一つ付け加えれば「ダイバーシフィケーション（多様化）」。あらゆる人たちが出番を持つ、この3つがキーワードだと思っています。

その中でも特に経験から申し上げますと、デジタルトランスフォーメーション（DX）のキーはやはり人への投資、人材育成、「リカレント」若しくは「リスキリング」と言われていますが、現有の人的資源をどうやって新しい環境の中で生産性を上げていくかに尽きるのではないかと思います。岸田首相も所信表明演説で、今後5年間で1兆円を使うと言っておられましたが、これは政府に任せておけば良いという訳ではありません。全世界の中で、アメリカは人材育成にGDPの2%を使っている、欧米でも1.5%を使っている、それに比べますと日本は0.1%、桁が違うくらい人材に対する投資が遅れている。これがそのままデジタル化、IT化の遅れに直結していて、先ほど申し上げたように、アジアの中でも6番目、世界では29番目くらいになってしまっているわけです。そういう点では、最後の具体的な戦略をどうするかについては、本気になって人材をリスキリングしていくこと、そのために具体的に何をしていくかということを確認にする。戦略的プログラムとありますが、この中の「デジタル社会の実現」が本当のキーだと思うのです。

前回の総合計画では、生産性を上げるという言葉が使われましたが、生産性を上げる前に、やはり人材が社会に適応できるような、いわゆる仕事にあった人材をどれだけ増やしていくか、人材を廃棄してしまうのではなく、むしろ今の人材を活かしながら新しい人材をどう取り入れてくるか、その場合、生産年齢人口が足りなくなれば、今までは例えば高齢者や女性をもっと産業界に送り込むとかの方法があったのですが、今やそれでも足りない、そうなってくるとアジアの中ではデジタル化とかIT化が進んでいるベトナムとか韓国、インド、バングラデシュの人たちをもっと日本に取り込んで、そして多文化共生社会を目指すことを考えていく。いろんな海外の例を見ましても、例

えばシリコンバレーを繁栄させているのはアメリカ人ではなくて、アジア人でありインド人、イギリスの金融関係の場合も外国人です。日本でも産業を活性化していくためには、むしろ海外からの人材を活用していくことをもっと真剣に考えていく必要があるのではないかと思います。そうすると海外人材を受け入れる生活環境とか働く環境が大事になってくることも含めて、多様な人材を受け入れる環境の整備を進める必要があります。

政府が人材の育成に1兆円を使うのであれば、どのように使えば現在働く人たちをリスクリングしながら生産性を高めていくことができるのかを、具体的にデジタル戦略の中で考えていただきたいというのが希望です。

よろしく願いいたします。

(中村会長)

ありがとうございます。私もまさに同感です。特に資料2の20ページの5番を根本的に書き換えてほしいと思います。「高等教育の振興」が3ポツ目に書いてありますが、牛越委員もおっしゃいましたし、ほかの方も異口同音に言われたように、子どもの教育が重要なのは当たり前ですが、そうではない地域中核人材の学びがあって、リカレントも含めて循環する学びというような、人が人を育てるといふ仕組みをつくる必要があるのではないかと思います。それが「学びと自治で切り拓く新時代」になると思っていて、子どもの能力を、好奇心、探求心、これは当たり前の話ですが、もう一歩進んだ形で、この地域を豊かにするというのであるならば、そういう観点が重要なかなと思っていますが、梅崎委員、どう思われますか。

(梅崎委員)

私もそのように思います。デジタル、DXはツールなので、どこに使うかどのように使うかが大事だと思うのですが、まさに今、議論されているところの社会インフラの整備は、ひとつ大きいのではないかと思います。やはり長野県は広いですし、いろんな方がいらっしゃるのだからこそデジタル的なインフラ整備を他県に先駆けてやっているのだと思います。具体的なことでは教育に導入していくとかです。抽象的で見えにくいからこういう議論になっていると思いますし、前からお話しているように、デジタルはやはり具体的なことをやらないとお題目だけになってしまうので、政策の柱というよりも施策の中に具体的なことがいくつか入れられるものだと思いますし、まさに今、会長が言われたように教育にこそ入りやすいのではないかとというのが私の感想です。

(中村会長)

ありがとうございます。事務局、申し訳ないのですが、生涯学習、デジタル・DX対応、アント

レプレナシップも、そこには年齢の壁はないので、そういう観点の学びで1つ、政策の柱の6番目を作っていただきたいと思った次第です。

それでは最後の21ページですが、「計画推進の基本姿勢」で、これは行政運営の推進、市町村との連携の推進、地方分権の推進という3つの観点が出ておりますが、この点はいかがでしょう。

最後に追加資料でご意見を賜りたいと思います。

会長があまりしゃべってはいけませんし、冒頭から申し訳ないのですが、「戦略的なプログラムを計画に掲げることについて」で戦略的なプログラムとして丸が6つあるので、1、2、3、4、5、6と番号を付けていただきたいと思います。①の「女性・若者から長野県が選ばれるための戦略」、みんな戦略とついているのですが座りが悪いので、私は能動的なアクション、「脱炭素社会を実現するためのアクション」という感じの言葉の方がいいように感じるのですが、それも踏まえて、ご意見を賜りたいと思います。実際にめざす姿を実現するための戦略となりますので非常に重要な資料になると思っております。それではどなたからでも結構ですので、ご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。梅崎委員、お願いいたします。

(梅崎委員)

5つの政策の柱があり、戦略的なプログラムが6つありますが、先ほどの説明では戦略的プログラムの位置づけが不明確な感じがして混乱しています。

(中村会長)

数が違うという点、事務局の方でご説明を。

(小林総合政策課長)

5つ政策の柱に関しては、県でやっているすべての政策を5つにまとめたものです。それに対して、戦略的なプログラムとして掲げたいものは、新しい時代に向けて社会システムを根本的に転換すべきとか、これまでやってきた施策の新転換を図るとか加速化するので力を入れるとか、先駆的な事業をこれからやっていくとか、そうしたものを6つ並べたもので、言ってしまえば、施策の総合的展開から、力を入れて社会転換を図っていくんだというものを取り出したという趣旨です。

(梅崎委員)

そこがよく分からないのです。政策の柱と戦略的なプロジェクトがリンクするところもあり、戦略が政策の柱でもいような気がするのです。ただ、政策の柱は今までの経緯が含まれていると思いますが、戦略的なプログラムが、6つ目の政策の柱という位置づけだったらまだ分かるのですが、

そうでもないので、政策の柱と戦略的なプログラムの位置づけが、混乱している状況です。

(中村会長)

委員がおっしゃっているのは資料1-1ですね。政策の柱と戦略的なプログラムが対比されていないということですか。

(野原委員)

先程からややこしいことばかり申し上げておりましたので、こう理解したらいいかと思っていたのですが、「確かな暮らしを守り、ゆたかな信州を創る」という大きな基本目標があるわけですね。それは、「持続的で安定した暮らしを守る」、それから「創造的で強靱な事業を育てる」、それから「快適でゆとりのある暮らしを創造する」、これが「確かな暮らしを守る」ことになるのです。政策の柱が基本目標の説明だとすれば、政策の柱をそんなに大きい字で書かなくても。考え方からいけば「長野県を取り巻く状況」「長野県の特長」があって、「それを活かした戦略です」であれば分かります。政策の柱と戦略的なプログラムを同列に見てしまうものだから、どこに視点を置いていいのかが分かりにくい。自分の中で整理したのは、「現状と課題」があり、それを受けて基本的な姿勢として「確かな暮らしを守り、ゆたかな信州を創る」というのが、いわゆる長野県としてのめざす姿、基本目標です。具体的にはどうするかというのが「戦略的なプログラム」ですと言った方が分かりやすいような、スッキリするような感じがします。

(中村会長)

ありがとうございます。資料1-1の真ん中に「戦略的なプログラム」が書いてあるのがおかしくて、下の方に、「基本姿勢／(スラッシュ)」ぐらいで、「戦略的なプログラム」を書くぐらいがいいのかなと。追加資料の書きぶりも、「～ための戦略」と書いていて、若者や女性から長野県が選ばれるのもベストですが、具体的なプランがないことが変なので、例えば「女性・若者から長野県が選ばれるようにします」、「脱炭素社会を率先してリーダーシップを取ります」とか、「デジタル社会の実現」、そのぐらいで止めておいた方がいい気がします。

(根橋委員)

すみません。よろしいでしょうか。私なりの理解は、先ほど会長が「アクション」という言葉に読み替えていただきたいといったお話があり、私自身すっかり落ちたのですが、この場でも申し上げたとおり、この次期総合5か年計画の参加型、対話型は、理念だけで終わらせてはならないと考えます。追加資料の6項目は、具体的に計画を進める上で、様々な皆さんと議論をし、具体的に実

現のための結論・対策を得て、それぞれが参加型で担い手となり進めていかなければならない項目ばかりとっておりますので、具体策につなげるための「アクション」として位置付けていただくと参画に繋がるのではと考えます。そういった理解で進めていただければ、それぞれの役割が分かりやすいのではないのでしょうか。担い手に考える視点を持っていただく意味でも、「アクション」と位置付け、それぞれが考え合い、参加できるような計画につなげていただきたいという期待も含めております。

(中村会長)

ありがとうございます。やはり資料1-1で、下のところ、全体を支える感じで、「基本姿勢」、「アクション」と。「アクション」については5か年のうちで、部会とかを設けて具体的にどう実現するかを検討する感じにすれば。

ほか、いかがでしょうか。中條委員、お願いいたします。

(中條委員)

この基本目標を実現していくために、やはり県民の皆さまにもこういうことを進めていますよと分かっていたかなければいけないので、この戦略的なプログラムで6項目を中心にして進めていきますということで、県民の皆さんにお知らせするのは分かりやすいと思っております。

それで、「確かな暮らしを守り、ゆたかな信州を創る」というこの題名は具体的になって、県民の暮らしを守るんですよということが分かってよかったと思います。若い女性ですが、大学などで一旦都会に行きましても、また暮らしやすい長野県に帰ってくるということを進めていければよろしいのではないかと思いますので、やはり仕事をして子育てがしやすい県ということを具体的に出していくことが大事かなと思います。

年齢も性別も国籍も障がいの有無も、男性も女性も関わらず、誰もが個性、能力を伸ばすような意識で社会を進めていただいて、誰もが住みやすい社会になると思いますので、お仕事する人たちが自信を持って仕事ができるような社会づくりを進めていただければよろしいと思っております。以上です。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。まずは柳澤委員、お願いいたします。

(柳澤委員)

この戦略的なプログラムですが、「施策の総合的展開」との関係性がどうなのかと考えてしまいます。戦略的なプログラムに例がありますが、細かに6つ書いてありますが、大枠で目指す戦略を考えたらどうなのでしょう。そうすると、こういう戦略があつて、施策の総合的展開があるというつながりになればいいのではと思いました。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。私も同じような考え方で繰り返しののですが、資料1-1の土台のところに、政策の柱を実現するためにこんなアクションをしますという感じに並べるのがいいのではないかと思いました。

ほか、いかがですか。安藤委員お願いします。

(安藤委員)

戦略的なプログラムの例の中で違和感がありますのは、「経済を再構築するための戦略」とありますが、これは国家レベルで考える問題で、あまりにも幅広過ぎるというか曖昧過ぎて、他の5つと全然レベルが合わないのではないかということ述べたかったのです。

(中村会長)

ありがとうございます。私も同感です。

今の安藤委員のご発言に乗っかり、会長が発言してはいけないのですが、戦略的なプログラムの4番目の「新たな時代の学びの戦略」は先ほどから言っているように、ストレートに地域中核人材の育成に精を出しますとか言ってほしいです。どうですか、安藤委員。

(安藤委員)

そうですね。全くそのとおりだと思います。

(小林総合政策課長)

中村会長、よろしいでしょうか。

(中村会長)

はい、どうぞ。

(小林総合政策課長)

非常に多角的なご意見をいただいて大変ありがたいと思っております。人材のところですが、施策の総合的展開の中では、皆さんには怒られてしまうのですが、非常に縦割りでよろしくないと言われてしまうかもしれないのですが、実は、地域中核人材の育成ですとか、あるいは産業につながる人材の育成は、別の場所を書いてありまして、産業系の人材育成が政策の柱の2番目のところに、18ページを見ていただきたいと思うのですが、そこに書いてありまして、産業人材確保ですとか、めざす姿ではリスクリングによる産業人材の育成・確保云々も入れているところでありまして、産業系の学びを政策の柱2に整理をしているということ。それから地域中核人材に関しましては19ページの上、「快適でゆとりある暮らしを創造する」の地域づくりの中で、「地域の特徴と自然の恵みを生かした地域デザインの推進」とか「デジタルの力を活用した便利で快適な暮らしの実現」、「持続可能な地域づくりの推進」、「移住、交流、多様なかかわりの展開」と書いてありまして、この中に地域中核人材を育成していくことも掲げようとしており、まったく掲げていないわけではありません。5の政策の柱「誰もが主体的に学び続けられる社会をつくる」は、学校教育ですとか学校以外の、いわゆるドロップアウトした人たちをいかに救うかというところ、あるいは牛越委員からありましたように、生涯学習ですとか社会教育を書いているところです。

それから「戦略的なプログラム」のところでも、人材に関しては先ほど安藤委員から厳しいご指摘をいただきましたが、「経済を再構築するための戦略」の中にグローバル人材の育成というような、ビジネス英会話の教育から始まって今日的なグローバル人材も育成するという趣旨で入れています。産業人材の確保はその上の「女性・若者から長野県が選ばれるための戦略」の中に括弧書きで「産業人材の育成・確保」を書いてありますが、全般にいろんなところに学びと人材育成は盛り込んでいるところではあります。

非常に分かりにくくて申し訳ございませんが、中村会長や安藤委員、梅崎委員のお話を書いているわけではなくて、私のご説明も省略してしまったのですが、それぞれ盛り込んではあるというところです。

先ほど安藤委員のお話や中村会長のお話で「経済を再構築するための戦略」は大きすぎるというお話ですが、実は県庁内部でも悩んでいるところでして、我々としては輸出、インバウンドなどで外貨を持ってきて地域内経済循環で回すという、富を地域内で回していくことを打ち出していきたいと思っていたところですが、具体的に何かいい案があれば、会長をはじめ委員の皆さんからご意見を賜れば大変ありがたいと思うところです。以上です。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。戦略的なプログラムはこの会議で決めることでしょうか、今の

小林課長のご意見を踏まえていかがいたしましょう。梅崎委員お願いします。

(梅崎委員)

繰り返しになりますが、戦略的なプログラムと政策の柱の関係を明確にして整理してください。

(中村会長)

戦略的なプログラムだけが独り歩きすることになると思われます。どうでしょうか。ペンディングで、でもあと1回しか審議会がないのですが。

(小林総合政策課長)

会長、よろしいでしょうか。実は、これまでの長野県の総合計画ではプロジェクトを掲げてきたところです。現行計画では、資料1-3をご覧くださいと、「チャレンジプロジェクト」が一番後ろにあります。この「チャレンジプロジェクト」は現行の総合5か年計画において、答申の時にはなかったものです。これが最終的に資料1-3を見ますと、「人生を豊かにする創造的な「学び」の基盤づくりPJ」とか、「人生のマルチステージ時代における多様な生き方の支援PJ」まで6つ書いてあります。長野県の総合計画は総花的です。それは県の全ての政策をなるべく入れたいというところがありまして、県議会側の要望でもあり、計画は議会の承認案件になっていまして、公共事業も入れていきます。高速道路の整備ですとか道路整備ですとか道路改良ですとか、そういうのも入れていまして総花的になってしまう中で、歴代の総合5か年計画の中では、特徴的なもの、重点的に取り組むものを何か入れていきたいという意図で、プロジェクトなるものを総合計画の政策の柱立てと別に出してきたところです。ただ、計画によっては政策の柱の中にプロジェクトを位置付けている場合もあるのですが。

(中村会長)

時間がなくなりましたので、繰り返しになりますが、要するに「アクション」と言い換えたのが今後非常に重要になってくる感じで、梅崎委員が何度もおっしゃっているように、政策の柱とは別に立てるとなると、アクションだけが動いて、政策の柱が実現しないというのは困るわけです。基本的に、ロジックから言うと政策の柱を実現するためのアクションであるべきだということです。事務局でこの案を再度検討していただいて、もう1回ご提案いただけますか。今の私の提案で委員の皆さまいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(一同)

はい。

(中村会長)

大変申し訳ないのですが、この追加資料に関しては、このままでは受け入れられないということと、資料1-1で、戦略的なプログラムを前に書いているのは違和感があるというところは、審議会の総意にさせていただきます。ちょうどいい時間になりましたが、何か追加のご発言ありますか。

(梅崎委員)

最後に1つだけ。先ほどから「世界的な」とか「地域の」ということが出てきましたが、要するに国がやるべき施策と県がやるべき施策、それと市町村がやるところが、それぞれ重要度が変わってくるのだと思います。その中で、地域計画が資料1-1に書かれているのですが、もう少し説明していただきたいかったです。地域で考える、市町村で考えられていることと、この総合計画がどうリンクして、逆に市町村の計画をどう調整していくかとか大事ではないかなと思っていたので、今回は説明していただければと思います。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。それではまとめになりますが、まずは1点目、次期総合5か年計画の答申素案につきましては、皆さまからいただいた意見を入れ込んでさらにブラッシュアップをしたものを次回の審議会に出すということ、2点目は、戦略的なプログラムについては、政策の柱と、それを実現するためのアクションという建て付けに変えていただきたいということと、3点目が77市町村の自治体がある中で、次期総合5か年計画がどう位置づけられているかをまとめてご提案すると、この3点でよろしいでしょうか。

(一同)

はい。

(中村会長)

はい、ありがとうございます。ではいい時間になりましたので会長の任を解かしていただきたいと思います。会議のスムーズな進行にご協力いただきまして誠にありがとうございました。

それでは事務局の方にお返しいたします。

(2) その他

(馬場総合調整幹)

中村会長、ありがとうございました。また、委員の皆さまにはたくさんのご意見を頂戴しありがとうございました。事務局から最後に2点ご連絡いたします。まず1点目ですが、追加のご意見等ございましたら特に様式等お示しておりませんが、今週の21日の金曜日を目途に事務局までお寄せいただければと思います。

2点目ですが、次回の審議会の日程です。今回は11月8日の火曜日に開催させていただきたいと考えております。各委員の皆さまにはご多忙とは思いますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

4 閉 会

(馬場総合調整幹)

それでは、以上で本日の長野県総合計画審議会を終了いたします。ありがとうございました。